ヤギ除草を活用した CSR 環境整備

ヒラヰ電計機(株) 令和けいはんな事業所

2019 年 7 月、ヒラヰ電計機（株)「令和けいはんな事業所」は緑豊かな精華町の丘陵地「けいはんな学研都市」に建設されました。棚田地帯であった地形を活かしたこの場所は、北に山を頂き、東に田畑を抱く里山の原風景を残しています。敷地内の竹林や棚田跡地を再生し、地元に愛される企業を目指します。

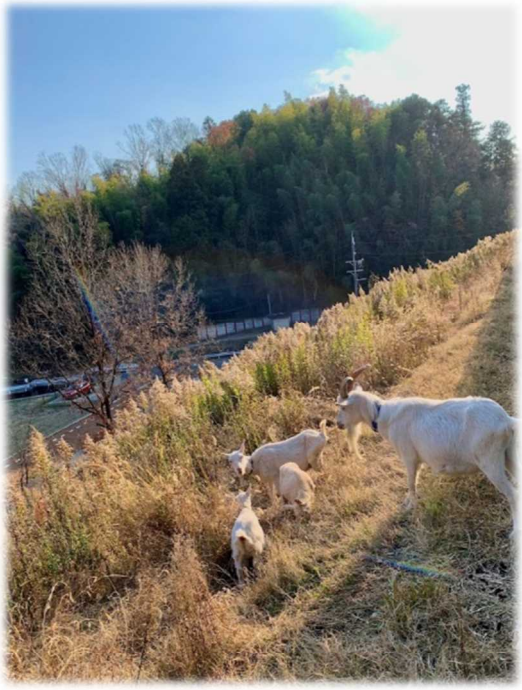
※山林を含む総面積 15,000 ㎡
建屋、敷地部分面積は上記の約半分

取組の開始時期	2020(令和２)年 12 月～現在
取組の内容と目的	・社屋の法面の雑草の駆除 ・草刈り機等の燃料を使用削減と、野生動物、昆虫等への配慮 ・地元の方々に当社を知って頂き、見守って頂く形での持続可能な除草効果を期待する ・棚田地帯であった里山の風景の再生を目指す ・除草作業に対する経費削減
取組の経緯	春には山桜が咲き、夏にはカブトムシやクワガタ、多くの昆虫たちが活動し、秋には赤とんぼが飛び交い、冬は美しい雪景色を見ることもできます。 この景色を見ると、ふと昔遊んだ野原を思い出す方も多いのではないかと思います。 しかし、このように自然豊かな地であるが故の問題点もあります。 それが敷地内に生息する「雑草」と「竹」の存在です。 竹＝立ち入れる範囲を人力で 1m切り※ を実施中。 ※竹は 1mの位置で切断すると２～3 年で根っこから枯れて抜ける特性を持つ 雑草＝当社の面積を業者さんに依頼して除草してもらう場合、最低年間 3 回は必要。一回の費用はおよそ 35 万円～40 万円。高額な費用であること、CSR の観点からもヤギによる除草を実施することにした。
取組の概要	●地域創生＝持続可能な町づくり、地域への貢献、ヤギ除草による環境への配慮。 将来的には里山風景の再生と、精華町の魅力を訴求できる一助となり、地域への貢献を継続したい。

	●波及性＝近隣のレンタルヤギ業者から提供されているヤギを利用。地域企業との繋がりと、ヤギ除草の波及効果を狙う。地域連携や将来的にはヤギを通じて子供たち、高齢者の癒しの場を作る事も検討したい。
除草効果の遷移	・2020 年 11 月にレンタルヤギ業者から 1 か月のお試しレンタルを実施。 ・1 か月間でも十分な除草効果が得られたので、年間契約を決定。 ・ヤギは番いの 2 匹。 2020 年 11 月。 雑草の勢いは収まったものの、160 ㎝以上になるセイタカアワダチソウ、チガヤ、イグサ、雑草の海。階段も草で埋もれるほど。 番いのヤギ 2 匹。 初日の雑草の様子。 2020 年 12 月。 手前の草のない部分は、ヤギ達が食べ進めて雑草が無くなった部分。 実施開始から 2 週間ほど。

斜面の角度は約 30 度。
人力ではこの法面の昇降も難しい。
ヤギはどんな斜面もお手の物。

2021 年 1 月。
子ヤギ 2 匹も参加。
家族での除草作業が開始されました。



【ヤギ導入の効果】

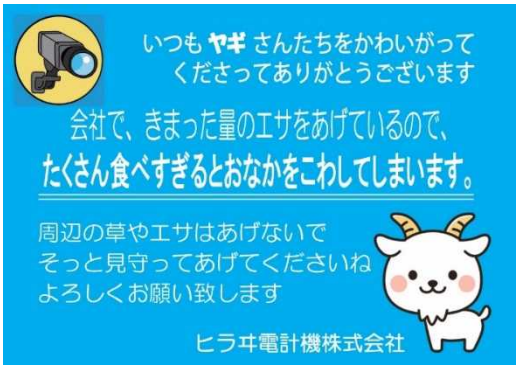
●雑草が減少することによってアレルゲンとなる花粉、マダニ、虫の死骸等の低減。

●ヘビ、イタチ、タヌキ、モグラの減少。イノシシも現れにくくなる効果があります。

●ガソリン等の燃料を使わない除草。機械による騒音の発生を抑える。

●除草費用の低減。

2024 年 3 月現在。
除草 3 年目。
人間は一度も草刈りをしていません。
夏草を食べてくれた後の冬の法面は美観を保っています。

ヤギの飼養について	ヤギは傾斜地や岩場にも暮らせる、家畜であり、ペットにもなり得る動物です。 とても丈夫で飼いやすいともいわれています。 しかし、そのためには毎日健康に過ごせるよう配慮する必要があります。 ・新鮮な水を与えること ・糞尿に異常がないか観察すること ・蹄が伸びすぎていたら切ること ・小屋の周りはいつも清潔を保つこと ・日々の栄養（飼料、草）が足りているか ・予防接種等、獣医さんを含めての 健康管理  地域の方々へのお願いの看板 現在は取締役会でヤギの飼養を担当。 将来的には社員たちとも相談し合い、会社全体での取組みとして行く予定。
持続可能な 社会へ向けて	地域環境への貢献としてヤギによる除草は継続致します。 また、事業所の位置する土地の特性を生かし、将来的には里山再生の一環としての環境整備も続けます。 「失われつつある懐かしい風景を残したい」 タケノコ狩り、虫取り、ビオトープの設置による生態系の観察、既設である家庭菜園のさらなる展開、獣害への対策等… 開かれた事業所として地域の方々や社会への貢献となる事を目標と致します。